

すわみつえ通信

No.384 2025年12月1日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

12月鴻巣市議会定例会 すわみつえ市議一般質問

12月15日(月)午前9時 以下の項目で一般質問を行います。傍聴にお出でいただけますようお願いいたします。

教育行政

- (1)川里地域小中一貫校の整備について
ア 小中一貫校の基本方針、基本計画について
イ 今後の意見交換会等の予定及び参加困難な住民からの意見聴取の工夫は
ウ 教育内容に関する学識経験者を交えた協議会の進捗について
- (2)スクールバス運行における課題は
- (3)PTA会費による学校備品購入について
- (4)北新宿第二土地区画整備地内の通学路の安全について

総務行政

- (1)管理職員の緊急時対応における特別勤務手当支給について
- (2)市職員の「子の看護等休暇」対象拡充及び取得要件の見直しについて



鴻巣市総合防災訓練
=11月30日、
市役所駐車場にて

鴻巣教育を考える会主催の学習交流会に参加「小中一貫教育は、子どもたちにどのような影響をおよぼしたのか？」

学習交流会が11月29日に川里生涯学習センターで開催され、会員そして議員として参加しました。発達心理学を専門とする中央大学名誉教授の都築学先生と実際に小中一貫校で教職に就いておられた柏原ゆう子先生のオンラインで繋いでの学習会は、80名近くの参加者で熱く語られました。

都築学先生の「小中一貫教育・学校統廃合の問題点」で、児童生徒の増加、通学区の広域化など、鴻巣の現状からも理解していましたが、「特別な教育的ニーズのある子どもが置き去りにされる」と特別支援学級の子どもの配慮がされなくなるということには今まで思いが至りませんでした。

オンラインで参加された柏原ゆう子先生は、小学校と中学校の授業は学習指導要領に基づき実施するため、それぞれの授業開始・終了チャイムが違い、子どもたちが混乱すること。運動会と体育祭の違いなど、学校生活で日々混乱が起きることが報告されました。

参加者からもたくさんの質問意見が出されました。12月議会前に学習会に参加でき、子どもの発達における心理、また、小中一貫校の子どもたちの実態を学び、参加された市民の皆さんのご意見を伺えたことを質問の糧にしていきます。



教育学習会=29日
川里生涯学習センター

三日月見たりし姉の逝きて冬
瑠璃子

【俳句コーナー】

第33回鴻北労連
定期大会に出席
11月27日、
クレアここのす



11月29日、赤見台支部社会福祉協議会の地区懇談会で鴻巣警察署の講師による「交通安全講習」を受けました。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

非核三原則見直し強く抗議 日本被団協が内閣府に声明



日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）は11月20日、高市早苗内閣が、非核三原則の見直しの検討を始めると報じられたことに対し、「高市内閣の『非核三原則』見直しに強く抗議し、『非核三原則』の堅持、法制化を強く求める」とする声明

を発表し、内閣府に送りました。

これまでの政府見解を覆して見直し議論の開始に抗議。「日本に核が持ち込まれ、核戦争の基地になることも核攻撃の標的になることも許すことができません」と訴えています。

日本政府に対し、非核三原則の法制化、核兵器禁止条約への署名・批准、原爆被害者への償い、核兵器も戦争もない人間社会にむけて世界の指導的役割を担うことを強く求めています。

【しんぶん赤旗 11月21日付】

【非核三原則とは】 核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」とした日本政府の基本政策(国是)です。

1967年に佐藤栄作首相(当時)が国会で表明し、71年に沖縄返還との関連で非核三原則の遵守を盛り込んだ決議が国会で採択されました。以降、歴代政権もこれを「堅持する」として継承してきました。

核廃絶へ一歩踏み出して 群馬母親大会で日本被団協・児玉氏講演



第63回群馬県母親大会が11月16日、沼田市で開かれ、367人が参加しました。

全体会では、日本被団協事務局次長の児玉三智子氏が記念講演。国民学校2年生の7歳の時に広島で被爆した児玉氏は「父の背中から見た地獄のありさまは、今も私の目に突き刺さって離れません」と語りました。その後結婚し放射能の影響がないか迷い苦しみ、決断して生み育てた娘は、45歳でがんに襲われ、発症から4カ月で亡くなりました。

日本被団協の結成から69年。「今こそ日本が核兵器禁止条約に参加し、核兵器廃絶の先頭に立ち、世界をリードする道に踏み出すことを願っています」「一人ひとりが自分のこととして考え、自分にできることで今日から一歩踏み出しましょう」と呼びかけました。

ある参加者は「87歳の児玉さんが被爆を語ることで、死者が今によみがえるように感じました。人間らしく死ねないのは惨めです。平和が大事です」と語りました。 【しんぶん赤旗 11月26日】

戦争も核兵器もない世界を求めて 《きのこ雲の下の体験を次世代につなぐ》

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）

事務局次長 **児玉三智子さんが鴻巣で講演します！**

と き 2025年12月6日（土）

開場 13:30 14:00～16:30

ところ こうのすシネマ 多目的ホールA

参加協力券 500円 *当日券あります

日本被団協
ノーベル平和賞から1年 手応えと危機感



日本被団協 児玉三智子さん

主催：鴻巣市日本共産党後援会 【問い合わせ】 090-9376-1408